

松江工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	基礎プログラミング3											
科目基礎情報																	
科目番号		0017		科目区分		専門 / 選択											
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1											
開設学科		電気情報工学科		対象学年		3											
開設期		後期		週時間数		2											
教科書/教材		「やさしいC (第5版)」高橋 麻奈 著, SoftBank Creative															
担当教員		林田 守広															
到達目標																	
(1) プログラム文法の基礎（ポインタ，関数，クラス）を理解する。 (2) プログラムを読み，その動作を説明できる。 (3) 基本的なプログラムを作成できる。																	
ルーブリック																	
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)											
評価項目1		プログラム文法の基礎（ポインタ，関数，クラス）を的確に理解している。		プログラム文法の基礎（ポインタ，関数，クラス）を理解している。		プログラム文法の基礎（ポインタ，関数，クラス）を理解していない。											
評価項目2		プログラムを読み，その動作を的確に説明できる。		プログラムを読み，その動作を説明できる。		プログラムを読み，その動作を説明できない。											
評価項目3		基本的なプログラムを的確に作成できる。		基本的なプログラムを作成できる。		基本的なプログラムを作成できない。											
学科の到達目標項目との関係																	
学習・教育到達度目標 3																	
教育方法等																	
概要		情報化社会のなかでスマートフォンを始めとする様々な機器にソフトウェアが組み込まれており，現代を生きる人間にとって情報処理システムはなくてはならないものとなっている。本授業の大きな目標はそのような機器のなかでソフトウェアがどのように動作しているか理解できるようになること，および，自分自身で設定した仕様に基づいてソフトウェア開発ができるようになることである。そのために本授業ではプログラミング言語の基本概念である，ポインタ，配列，関数を主として学ぶ。															
授業の進め方・方法		・ (1)～(3)の目標それぞれについて定期試験および課題演習にて評価する。 ・ 50点以上 (100点満点) を合格とする。不合格となった場合，中間・期末試験をそれぞれ30点以上取得し，最後の授業までに課題															

			ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。	2	
			プログラミング言語は計算モデルによって分類されることを説明できる。	2	
			主要な計算モデルを説明できる。	2	
			要求仕様に従って、標準的な手法により実行効率を考慮したプログラムを設計できる。	2	

評価割合				
	中間試験	期末試験	課題演習等	合計
総合評価割合	35	35	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	35	35	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0